

9月11日ゼミ合宿用 脇嶋

1. 今まで調べてきたことのリスト化

・M&A 成長の戦略 (服部暢達 著 東洋経済新報社 1999年)

M&A とは何か

M&A の目的

M&A の歴史

M&A の形 (ソニー→コロンビアピクチャーズ、KDDI→テレウエイ)

日本での M&A に対する価値の変化

・企業買収の裏側 M&A 入門 (淵邊善彦 新潮社 2010年)

M&A の種類 (買収や合併だけでないということ)

M&A において企業が大切にしなければならないこと

M&A における仲介者の存在

身上調査 (デューディリジェンス)

これからの M&A について

・M&A という選択 (畑野幸治 プレジデント社 2017年)

中小企業と大手企業によって M&A が持つ意味は違う

M&A の形、種類

M&A において企業が大切にしなければならないこと

ケーススタディ

M&A については、以上の3冊を書評として提出した。

2. 上記のリストや考えていることから、卒論に盛り込めそうなことを全て項目化、それを類型化

現時点で、自分自身が最も主張したいことは「日本の中小企業は、海外企業による M&A に新たなチャンスがある」ということである。

その考えに至った理由は、

M&A=買収→乗っ取りというイメージを持っていて、ネガティブな印象があったが、本を読むうちに、企業の拡大や成長、新事業を効率よくはじめるための戦略であるというのを知り、ポジティブな印象を得た。また個人の見解であるが、中国をはじめ、多くの国がものすごい勢いで成長している中で、日本の企業はこれまで通り戦っていけないと考えていて、そういう状況では、日本の中小企業は、成長を続ける海外企業に買われることが、これからのために重要な戦略になると考え、それを卒論にまとめたいと思った。

〈ブレインストーミング〉

本や自分の考えから卒論に盛り込めそうな項目は、

- ・ M&A の定義
- ・ M&A の歴史
- ・ M&A の種類
- ・ M&A の目的
- ・ M&A の手順
- ・ M&A において企業が大切にしなければならないこと
- ・ 中小企業における M&A と大手企業における M&A の違い
- ・ ケーススタディいくつか

〈クラスタリング〉

M&A

→企業→大手→事業拡大→収益

→中小→新たなビジネスチャンス

→資金や雇用の確保

→社風への影響

→合併→双方の利益

→人事への影響

→様々な M&A の形→株式取得

→事業譲渡

3. アウトライン

- (1) はじめに
- (2) M&A とは (定義、種類、目的など一般論)
- (3) タイトル未定 (日本や世界の経済状況などのデータをもとに、自分の言いたいことをまとめた)
- (4) ケーススタディ (IT、工業、製薬会社などが候補、まだ知らないことがいっぱい)
- (5) タイトル未定 (M&A を進めるべき業界や、M&A を完了させたあとの企業の在り方)
- (6) 終わりに